

公益
社団
法人

日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2018

vol. 26 no. 2



第65回学術集会 注意事項

会期 5月17日(木)～19日(土)**会場** パシフィコ横浜、横浜ベイホテル東急

本学術集会の事前予約は5月7日(月)正午まで行っております。日本専門医機構認定講習(専門医共通講習、麻酔科領域講習：リフレッシュコース)、共催セミナーの事前予約も行っております。その他、事前予約をしていただくと当日受付時間が短縮されます。是非ご予約ください。

プログラム、抄録、アプリについて

プログラムタイムテーブルは第65回学術集会HPよりご確認ください。抄録は会員専用HPに4月上旬に公開、専用アプリは5月上旬に公開します。アプリダウンロードなどの詳細は第65回学術集会HPをご確認ください。

学術集会参加申込詳細

事前予約について

- 事前予約期間：2018年2月15日(木)正午～5月7日(月)正午
- 事前予約参加費：15,000円(当日申込の場合は17,000円)
- 事前予約での支払い方法：クレジットカード払い。
*コンビニ決済の取り扱いは、4月25日(水)に終了します。
- 事前予約済みであっても、会期中に必ず受付にお越しいただき、単位登録のための参加登録を行ってください。参加登録を完了されない場合、演者として講演した事実があり、参加費の支払いがあっても、参加単位・発表単位は付与されません。
- 事前予約済みで当日不参加及びキャンセルの場合、返金はいたしません。

会期中の参加登録について

- 会員の方は、会員カードを持参して、参加登録受付にお越しください。学術集会参加登録は5月19日(土)16:40に終了します。
- 会員カードをお忘れの場合、仮カードを発行します。仮カードに関する注意事項は「仮カードについて」の項目をご覧ください。
- 以下の時間内に参加登録を受付します。

5月16日(水) 12:00～18:30	パシフィコ横浜 国立大ホール1階「マリンロビー」
5月17日(木) 7:30～18:30	パシフィコ横浜 国立大ホール1階「マリンロビー」
5月18日(金) 7:30～18:30	パシフィコ横浜 国立大ホール1階「マリンロビー」
5月19日(土) 7:30～16:40	パシフィコ横浜 国立大ホール1階「マリンロビー」

※リフレッシュコースの追加・変更は該当コース開始前までに当日受付ブースでお済ませください。

※学術集会初日の5月17日(木)当日は、大変な混雑が予想されます。5月16日(水)に受付をお済ませください。

※受付には会員カードが必要です。予め準備の上(無い場合は当日仮発

行)、案内表示に従って所定の受付窓口にお進みください。

- 当日申込の場合、券売機での支払完了時点で、参加登録完了となります。券売機でのお支払い方法は現金またはクレジットカードとなります。
- 参加登録時に写真付き身分証明書の提示が必須となります。

入場管理について

- 優秀演題ポスター掲示・ポスター・ポスターディスカッション・共催セミナー講演を除く全講演会場入口で会員カードをかざして入場確認を行います。入場時と退場時に必ず確認PC端末にタッチしてください。
- 日本専門医機構認定講習会は、入場退場の記録管理が厳密に求められます。単位付与条件は1時間=1単位、講演の開始から終了までです。
- 会場内では、必ずネームカードと共に会員カードを身につけてください。
- 招待講演者を除く全ての参加者は参加登録が必要です。会員カードをお忘れの場合は、仮カードを受付で発行下さい。詳細は仮カードについての項を参照下さい。

共催セミナーについて

- 事前予約者は開始時間までに会場にお越しの上、会員カードをかざし、会場にご入場いただきます。
- セミナー開始後、不参加の場合は事前予約が自動的に予約取り消しとなりますので、予めご了承ください。
- 事前予約期間内に満席となったセミナーも当日空きがあれば、適宜案内させていただきます。会期中は、共催セミナー予約受付は行いません。

仮カードについて

- 会員カードをお忘れの方は仮カードを有料(1回発行ごとに1,000円)で発行いたします。(会員でない場合は無料発行)
- 2018年3月までの入会者、及び4月9日(月)時点で入金確認できている再発行申込者には、4月下旬から5月上旬の間に会員カードを送付します。4月10日(火)以降の再発行申込者は、当日受付で仮カード代(1回発行ごとに1,000円)をお支払いください。
- 2018年4月の新入会者については、仮カード代は無料となります。
- 仮カードは、第65回学術集会でのみご利用いただけます。お帰りの際に、受付または回収BOXまでご返却ください。

- 会員カード・仮カードは、学術集会に関する申込情報を保持しております。参加登録、懇親会等の追加申込、リフレッシャーコース参加時には参加登録受付済みのカードが必要です。会期中は必ず携帯ください。

参加費について

申込変更・返金について

- お支払いいただいた学術集会参加費、学術集会関連費用(有料コース参加費用、懇親会費用等)、年会費は、いかなる理由がございまして返金はいたしかねます。
- 専門医共通講習・麻酔科領域講習(リフレッシャーコース)は、残席がある場合は他コースへの変更が可能です。

年会費請求について

- 事前予約または当日申込時に、2018年度までの年会費未納分を合わせて請求いたしますので、お支払ください。
- 学術集会前に既に年会費をお支払いいただいても、学会開催日直前に支払われた場合は、会期中の受付で未納と表示される場合があります。この場合はお支払い不要ですので、お申し出ください。

領収書発行について

- 事前予約クレジット決済の領収書は会員専用ページからのみ発行できます。
- 事前予約コンビニ決済の領収書は、コンビニでお支払い時に返却される受領書で代えさせていただきます。
- 当日支払分の領収書は、券売機でお支払い時に、ネームカードと合わせて券売機から発行されます。
- 領収書は必ず保管いただきますようお願いいたします。紛失等でお困りの場合は本学会ホームページTOPの「お問い合わせ」よりご連絡下さい。会期中会場での再発行は行いませんのでご了承下さい。

プログラム集・抄録について

- プログラム集は会期までに会員全員に発送いたします。抄録は会員専用ホームページ上で公開しております。プログラム集の当日配布はいたしません。(会員情報にご登録されている住所が最新のものが必ずご確認ください)
- 学術集会プログラムや抄録の閲覧が可能な携帯情報端末用アプリ(iPad、iPhone、Androidでご利用可)を開発いたします。プログラム情報は自由にアクセス可能ですが、抄録本文の閲覧にはパスワードが必要です。パスワードはプログラム集の参加者へのご案内のページでご確認ください。

- 抄録ホームページの閲覧が可能なURL付きプログラム集は、学術集会会期中、5,000円で販売いたします。

ネームカードについて

- 第65回学術集会からネームカードはすべて受け付けにて当日出力となっております。ご了承ください。
- 会場内では必ずネームカードの着用をお願いします。ネームカードがない場合、セッション会場への入場をお断りする場合がございます。

リフレッシャーコーステキストについて

- リフレッシャーコーステキストはございません。概要は抄録として、HPおよび携帯情報端末用アプリから、閲覧が可能です。パスワードが必要となりますので、プログラム集の「参加者へのご案内」のページでご確認ください。

参加単位・発表単位について

参加単位について

- 事前予約の有無に関わらず、会期中に受付で単位登録のための参加登録をされない場合、第65回学術集会の参加単位は付与できません。
- 集会当日参加証明書は発行いたしません。他学会提出用で参加証明書が必要な方は、学術集会終了後に本学会ホームページTOPの「お問い合わせ」よりご連絡ください。
- 医学生・臨床研修医(初期)招待企画での参加者は、後日入会いただいても、第65回学術集会参加単位は付与されません。
- 参加単位付与対象者は入会手続きが完了した本学会会員です。

発表単位について

- ご講演の事実に関わらず、会期中に受付で単位登録のための参加登録をされない場合、第65回学術集会の発表単位は付与できません。
- 発表がされなかった場合、筆頭演者・共同演者ともに発表単位は付与されません。
- 筆頭演者以外の共同演者が発表した場合であっても、発表単位は筆頭演者に付与されます。
注) なお、代理の発表者は共同演者に限ります。

学会時の新規入会について

- 当日入会申込み受付はございません。会期開催時点で、入会申請・審査結果通知受理・入会支払い手続きのすべてが完了していない場合は、非会員として参加下さい。

麻酔博物館 出張展示のお知らせ 「吸入麻酔薬の歴史」について

麻酔博物館では、第65回学術集会会期中に出張展示を行います。今回のテーマは「吸入麻酔薬の歴史」といたしました。パネル展示に加え、神戸の麻酔博物館より、テーマに合わせた収蔵品を出張展示致します。機器展示場ドリンクコーナー横に展示致しますので、お気軽にご覧いただけますと幸いです。

出張展示日時

5月17日(木) 9:00～17:00
5月18日(金) 9:00～17:00

場所

パシフィコ横浜 展示ホール内

2018年度支部学術集会 開催日程

日程	学術集会名	会長	所属	会場
2018年9月1日(土)	北海道・東北支部第8回学術集会	国沢 卓之	旭川医科大学病院	星野リゾート OMO7 旭川
2018年9月1日(土)	関東甲信越・東京支部第58回合同学術集会	落合 亮一	東邦大学医療センター大森病院	京王プラザホテル新宿
2018年9月8日(土)	東海・北陸第16回学術集会	谷口 巧	金沢大学付属病院	石川県立音楽堂
2018年9月1日(土)	第64回関西支部学術集会	中尾 慎一	近畿大学医学部附属病院	大阪国際会議場
2018年9月1日(土)	中国・四国支部第55回学術集会	萬家 俊博	愛媛大学医学部附属病院	県民文化会館 (ひめぎんホール)
2018年9月8日(土)	九州麻酔科学会第56回大会	垣花 学	琉球大学医学部附属病院	沖縄コンベンションセンター

〈注意事項〉

●演題登録について

演題登録期間：

2018年5月1日(火)正午～2018年6月15日(金)正午 (全支部共通)
主な注意事項は以下の通りです。

- ・演題登録には、倫理的事項に関する同意及び利益相反の申告が必須です。
*2013年度より、ヒトを対象とした研究の場合、後ろ向き研究であっても倫理委員会の承認が必要です。
*人を対象とした前向き介入臨床研究については、研究開始前に所定の事前登録を完了している必要があります。
*募集締め切り日時点で未公表のもの限り投稿いただけます。
- ・基礎研究及び臨床研究に関しては、原則として、抄録本文中に対象数、結果の数値、統計処理方法を記載してください。

- ・公正な査読を実現するため、抄録本文やタイトルには施設名を入れず、「当施設」といった記載としてください。
- ・応募締め切り日時を過ぎた後は、いかなる変更も一切認められておりません。
- ・類似内容での複数演題の応募は認められておりません。十分にご注意ください。
- ・会員としての発表を希望され、演題登録時に非会員である方は、5月10日(木)までに入会申込を完了してください
登録方法・注意事項の詳細については、支部学術集会ホームページを確認してください。

●会員(IC)カード再発行について

会員カードをお持ちではなく、支部学術集会開催までに再発行を希望される場合、7月中旬までに再発行手続きをお願いします。

2018年度支部学術集会 会長挨拶

北海道・東北支部 第8回学術集会 会長挨拶

旭川医科大学 国沢 卓之

公益社団法人日本麻酔科学会北海道・東北支部 第8回学術集会を2018年9月1日(土)に「星野リゾート OMO7 旭川(おもせぶん あさひかわ:2018年4月27日まで旭川グランドホテル)」にて開催できますこと誠に光栄に思っております。開催決定後の経営母体変更・ポスター配布後の名称変更となりましたことを、ここに御報告させていただき、混乱が生じた際は、この場をお借りしてお詫び申し上げます。会場は旭川駅北口から徒歩13分に位置し、周辺の街並みに配慮したレンガ仕立てのホテルとなっております。生え抜きスタッフも数多く残留し、新体制の良さを取り入れ、皆様に不都合のない運営を予定させて頂いておりますので、どうぞ、皆様、旭川の地にお越しいただけますと幸いです。これまで本学術集会は北海道と東北地方交互に7回行われてきましたが、北海道開催の過去3回は、札幌開催でありまして、今回初の旭川開催となる予定でございます。

さて、今回のテーマは「地方都市で安全を考える」とさせていただきます。患者に対する安全は、医療スタッフに安心を与え、この両者を達成するには、「最新の知識、最高の技術、最大の思いやり」が必要になると考えられます。各領域のエキスパートに最新の知識をご講演いただくことに加え、皆様の経験やご研究を存分にご披露頂くことが、必要かつ不可欠でありますため、可能な限り、両立できるプログラムになるよう、検討させて頂いております。

現在、学術集会の開催に向け鋭意準備を進めておりますが、本学術集会では、麻酔領域講習、専門医共通講習を最大限確保させていただき、麻酔科学会専門医新規申請・更新必要な単位の所得を行っていただけるよう計画させて頂いております。その他は、優秀演題口演、一般演題、周術期管理チームセミナー、企業共催セミナーを企画しております。なお、一般演題の募集期間は2018年5月1日(火)正午～2018年6月15日(金)正午を予定しております。詳細はこちらのホームページにて随時ご案内いたします。多くの演題のご応募と皆様のご参加をお願い申し上げます。

学術集会開催の9月初旬、例年ですと北海道では盛夏が過ぎ、徐々に秋の気配が漂う季節となり、夏の疲れを癒すには絶好の観光期となります。学会の終了後には旭川の風物・気候・名所・味覚を堪能され、有意義な学術集会となりますことを祈念しております。

関東甲信越・東京支部 第58回合同学術集会 会長挨拶

東邦大学医療センター大森病院 落合 亮一

2018年度の学術集会を担当する落合亮一(東邦大学医療センター大森病院・麻酔科)です。

地方会は、移動距離も少なく、また週末に開催されるために参加しやすい集会です(参加点数も、お徳感がありますよね?)。

地方会は、若手麻酔科医にとって発表の登竜門的な位置付けでもあり、演者の緊張と座長や聴衆の寛容のバランスを絶妙に取る必要があります。ポスターセッションに応募される皆様は日頃の腕試しとして是非、チャレンジしてください。また、座長をお願いする皆様、楽しい未来を紹介できるような采配をお願いします。

今回は、特別なテーマを設けませんでした。

それは、私たちを取り巻く環境が爆発的に拡がりつつあり、一言に集約できなかったからです。

麻酔科を中心とした『周術期医療』は、加速度的にそして飛躍的に変貌を遂げています。

日本麻酔科学会が推進してきた「周術期管理チーム」プロジェクトは、アメリカ麻酔科学会の Perioperative Surgical Home (PSH) や英国の NPO である Evidence Based Perioperative Medicine (EBPOM) と同様に、多職種連携で早期離床・早期退院をゴールとした活動です。

しかし、教育環境の整備を中心に発展してきた周術期管理チームは、認定制度をはじめとして非常にユニークな発展を遂げてきました。実際の私の施設では、2011年に本プロジェクトを導入以来、平均在院日数が2.5日も短縮していることが確認され、その意義が検証されたものと考えます。本集会でも、新興国における急性期医療の支援も視野において、次のステップを考えたいと思います。

もちろん、専門医共通講習や領域講習もふんだんに用意しますし、恒例の優秀演題の選抜と表彰も企画いたします。同時に、周術期管理チームセミナーもごございますので、職場の皆様も奮ってご参加ください。

皆様のご協力を得ることが学術集会の成功には不可欠ですので、どうぞ宜しく願いを申し上げます。

東海・北陸支部第16回学術集会 会長挨拶

金沢大学医薬保健研究域 谷口 巧

このたび日本麻酔科学会東海・北陸支部第16回学術集会を2018年9月8日(土)に金沢で開催いたします。会場は利便性を考慮し、金沢駅前の石川県立音楽堂で開催いたします。

現在の麻酔科学を取り巻く状況は、手術手技の向上及び機器の進歩に伴い、これまで躊躇していた超高齢患者や、よりリスクの高い患者において安全にかつ円滑に麻酔管理を行うことが要求されたり、日本専門医機構の専門医制度への変更などにより、大きく変わり、今後も変わっていくことが予想されます。この状況下では、個々人の知識・技量の向上が必要であり、重要視されるのではないかと考えます。

そこで今回は、あえて学術集会テーマを設けずに、自分の知識・技量のベースアップを図ることを目的として、「知っておくべき」シリーズを考えました。循環、呼吸、敗血症、筋弛緩、鎮痛・鎮静、医療安全、ペイン・緩和の7テーマに関して「知っておくべき」内容の講演を行う予定です。この講演は、ランチョンセミナー(2コマ)か専門医領域講習(4コマ)、共通講習(1コマ)とし、勉強しながら空腹を満たし、専門医に必要な単位も習得できるようにいたしました。さらに、東海・北陸支部には優秀な先生方から講師を選び、支部集会ならではのアットホームな集会を作ろうと思っております。

もちろん、若手の先生方にも多数参加、発表していただける機会を用意しますし、アットホームのついでに、休憩の折に金沢の和菓子等にも堪能していただければと思っております。

また夜には、食、風靡豊かな金沢も堪能していただければ幸いです。

是非金沢に来ていただき、学術集会へのご参加、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

第64回関西支部学術集会 会長挨拶

近畿大学医学部 中尾 慎一

第64回関西支部学術集会を主催させていただきます。近畿大学の中尾です。2018年9月1日(土)に、大阪国際会議場で開催いたします。今回テーマを、「麻酔科医の特権と責任」といたしました。麻酔科医は、循環・呼吸・脳神経系や肝腎といった多様な臓器のみならず、疼痛や敗血症といった多様な病態を学ぶことができるとともに、そのどれかを専門として選ぶことができます。一方、場合によっては患者の主治医とならないため、オン・オフのはっきりした生活を選択することもできます。さらに、手術麻酔管理に限って言えば、認定医を取る段階である程度のレベルに達することができ、自分の知識や技量に自信を持つことができるかもしれません。これが特権です。が、麻酔科学、そして麻酔の実践はこの多様性ゆえに実は非常に奥の深いものであり、「患者の命を守る最後の砦」となるためには、逆にこれらのすべてのことに通暁することが本来は必要なのかもしれません。これが責任です。

そのような趣意の下に、特別講演は滋賀医科大学神経難病センター長の遠山育夫先生に「アルツハイマー病研究の最前線(仮題)」というテーマで、招待講演では近畿大学循環器内科教授の栗田隆志先生に「ブルガダ症候群・QT延長症候群(仮題)」というテーマで、教育講演は近畿大学麻酔科の濱崎真一先生に「高血糖は何故体に悪いのか(仮題)」というテーマで御講演をいただく予定です。専門医共通講習では、マスコミにも多数出演されている近畿大学医学部病理学講座の榎木英介先生に、研究不正や論文不正について話していただく予定です。その他、共済セミナーとして、麻酔科学のみならず集中治療学やペインクリニックといった分野からの講演を予定しています。

麻酔科学の多様性という特色を生かした、皆さまにとって有意義な学会にしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

中国・四国支部第55回学術集会 会長挨拶

愛媛大学大学院医学系研究科 萬家 俊博

日本麻酔科学会中国・四国支部第55回学術集会を来たる2018年9月1日(土)に愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール)で開催させていただきます。学会のテーマを「麻酔科医療の品質管理」と掲げさせていただきます。麻酔科医が関わる医療としては、手術麻酔、集中治療、救急医療、ペインクリニック、緩和医療などがありますが、ここでは「麻酔科医療」を手術医療の術前評価、麻酔計画立案、術中麻酔管理、術後管理という概念で考えています。

国民から医療現場に対して、「医療の安全と質の確保」ということが一層強く求められる時代となっています。医療事故調査制度が始まり、医療行為に起因し、かつ予期しなかった死亡に関して、検証する仕組みが作られました。また、特定機能病院に対して、その施設で新規に行う高難度の手術などの医療行為を導入する際に診療体制を評価した上で導入の可否を決定し、医療行為の結果を検証する部門の整備も義務づけられました。手術医療は危険を伴う医療行為と認識されていますが、結果が悪ければ、検証の対象になる可能性があります。麻酔科医にとって、周術期の患者安全の確保に専心しなければならないのはもちろんですが、麻酔科医療における循環管理、呼吸管理、輸液輸血管理、術後疼痛管理などの品質を高めていく努力も重要です。手術中の生命は守られたが、「麻酔科医療の品質管理」次第で、患者の生命予後に影響を与える可能性があることにも関心を持つ必要があると考えます。

特別講演として、東京大学医学部附属病院手術部の安原洋教授に手術医療の安全や質の管理についてご講演をお願いしています。一般演題、優秀演題、麻酔科領域講習、専門医共通講習、共催セミナー、周術期管理セミナーなどを適切に配置して、会員の皆様が知識のブラッシュアップをより多くかなえることができる様に企画したいと考えています。皆様のご発表とご参加を心よりお待ちしております。

九州麻酔科学会第56回大会 in 沖縄 会長挨拶

琉球大学大学院医学研究科 垣花 学

この度、九州麻酔科学会第56回大会を沖縄で開催するにあたり、会長としてご挨拶させていただきます。沖縄での九州麻酔科学会は、前回は2007年に沖縄コンベンションセンターで開催されました。その当時は、開催医局が運営事務局となりその準備・運営をおこなっており、私は当時の幹事をさせていただきました。あれから11年が過ぎたのかと今さらながら実感しているところです。

さて第56回大会は、特別講演、専門医共通講習、周術期管理セミナーに加え、優秀演題セッションと一般演題(ポスター)を予定しています。特別講演は、国立循環器病研究センター生化学部・ペプチド創薬研究室長の野尻崇先生にお願いしました。野尻先生は、ヒト心房性利尿ペプチド(hANP)が肺がん転移を予防するという研究をされており、この分野の有望な若手研究者です。この分野の研究の最前線と野尻先生の研究への情熱を会員の皆様に感じ取って頂ければとの思いから依頼させていただきました。参加者が専門医共通講習を受講できるように、感染対策と医療倫理について2枠をお願いしております。学術集会の中心になるべき一般演題は、査読により選ばれた優秀演題を口演とし、沖縄コンベンションセンターの舞台で発表していただく予定にしております。ポスターセッションも非常に興味深い演題が多く、参加者の熱いディスカッションから示唆に富む意見が期待できると思います。

新専門医制度が始まりますが、恐らくこれからいくつかの問題点が浮かび上がってくると思います。九州各地から麻酔科医が一堂に会するこの学会でそれぞれの施設で情報交換を行うことも、学会開催の意義であると考えております。それぞれの参加者が、プログラムのみならず会員同士の交流から有意義な情報交換ができることを期待しております。

多くの会員の皆様をお待ちしております。

2017年度受け入れ留学生一覧

2017年度の留学生受入事業が完了しました。

以下の10名を受け入れたことを報告いたします。

番号	留学生	受け入れ施設	国名	所属
1	Rama Garditya	名古屋大学医学部附属病院	インドネシア	Rumah Sakik Pusat Otak National
2	Afolabi Muiyiwa Owojuyigbe	山形大学医学部麻酔科学講座	ナイジェリア	Obafemi Awolowo University Teaching Hospital
3	Prangmalee Leurcharumee	埼玉県立小児医療センター	タイ	Maharaj Nakorn Chiang Mai Hospital
4	Navindra Raj Bista	金沢医科大学病院	ネパール	Tribhuvan University Teaching Hospital
5	Shailendra Sigdel	神戸大学医学部附属病院	ネパール	Manmohan Cardiothoracic Vascular and Transplant Center
6	Ujma Shrestha	北里大学病院(周産母子成育医療センター産科麻酔部門)	ネパール	Kathmandu Medical College Teaching Hospital
7	Peter Tan Chee Seong	杏林大学医学部麻酔科学教室	マレーシア	Sarawak General Hospital
8	Varanate Nuengsigkapien	東京都立小児総合医療センター	タイ	Mettapracharak Watraikihing Hospital
9	Lam Tien Tung	京都府立医科大学附属病院	ベトナム	Thanh Hoa Province General Hospital
10	Tint Tint Aung	昭和大学病院	ミャンマー	Mandalay General Hospital

2018年度受け入れ留学生一覧

2017年8月1日～9月30日まで留学生受入の公募を行いました。

国際交流委員会にて留学生の審査を行い以下の10名を受け入れることとしました。

番号	留学生	受け入れ施設	国名	所属
1	Magaret Yangkasaputra	杏林大学医学部麻酔科学教室	インドネシア	Siloam Hospital
2	Vishal Krishna Pai	金沢医科大学病院	インド	Ganga Medical Centre And Hospitals
3	Lam Tien Tung	山形大学医学部麻酔科学講座	ベトナム	Thanh Hoa Province General Hospital
4	Shariffah Raguan Syed Othman	札幌医科大学医学部附属病院	マレーシア	Penang General Hospital
5	Chung Yee Lean	神戸大学医学部附属病院	マレーシア	Penang General Hospital
6	Pipat Saeyup	京都府立医科大学附属病院	タイ	King Chulalongkorn Memorial Hospital
7	Meera Mohan Metha	東京都立小児総合医療センター	インド	Tata Memorial Centre
8	Tumenjargal Purev-Oidov	和歌山県立医科大学	モンゴル	Central Hospital of Khubsugul province
9	Eslam Albayadi	名古屋大学医学部附属病院	エジプト	Suez Canal University Hospital
10	Arop Mawein Deng Kual	埼玉県立小児医療センター	南スーダン	African Center for Surgical Innovation



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 飯田 宏樹

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2018年2月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら anzen@anesth.or.jp までご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

<http://www.anesth.or.jp/med/post-2.html>

日本麻酔科学会トップページ → 医療関係者の皆様 → 麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

▶ スミスメディカル

CADD ポンプ用輸液セットの追加回収

スミスメディカル・ジャパン株式会社より、すでに自主回収を行っているCADDポンプ用輸液セットについて、自主回収のロット範囲を拡大する連絡がありました。

詳細は以下のPMDA回収情報をご覧ください。

<PMDA回収情報>

<http://www.info.pmda.go.jp/rgo/MainServlet?recallno=2-7490=>

▶ GEヘルスケア・気化器TEC6の

薬剂量インジゲータ誤表示

製品名

GEヘルスケア・気化器TEC6

事象

薬液量を示すレベル表示バー(LEDインジゲータ)が、使用しているにもかかわらず減少しない。

原因

デスフルランのボトル注入口弁で生成される不揮発性物質が、気化器TEC6プラスのタンク内(サンプル)に継続的に蓄積し、センサーを誤認識させるため。

これは、2017年9月15日掲載「バクスター・スープレンの気化器内黄変」に関連する現象である。

対応

本事象発生時はGEヘルスケアに連絡する。

蓄積された不揮発性物質は気化せず、患者が吸引する事はない。不揮発性物質は薬液量が20mL以下の際に鳴る“No Output”アラームには影響はしないので、このアラームが発生した際は、薬液の再充填をする。



北から南から

沼田克雄先生の思い出

聖マリアンナ医科大学麻酔学教室 井上 莊一郎

昨年逝去された自治医大麻酔科初代教授、沼田克雄先生について書き留めておきたい。先生は横浜市大、東大の教授を歴任後、1991年に自治医大救急医学講座の初代教授に就任され、以後数年間、週1回だけだが麻酔を指導して下さった。翌年入局の私たちは指導を受ける機会が多く、先生が指導医とわかると、先生の「褒める」指導や、先生が指摘される意外なポイントに思いをめぐらせ、ワクワクして準備していた。とくに印象に残るのは、ある小児症例である。

その朝も先生はいつものように「勉強した通り、好きなようにやって下さい」と仰って、静かに入室した患児を見て「いいですねえ、どんな前投薬ですか、あとで教えてくださいね」とニコニコされていた。気持ちが少し軽くなり、緩徐導入を始める。静脈確保のところマスク保持か穿刺をお願いすると「見えますから。一人でやってください」。これは完全に想定外である。頭側から腕に駆血帯を巻き、血管が怒張した頃にフェイスマスクをテープで顔に固定するのは思いついた。静脈確保後に先生を見ると「今日は見えますから、入れたい量を自分で入れて下さい」。

気管挿管後、先生は「手元と顔と呼吸バッグを一直線にして、呼吸が見えるようにしたのですね。いいアイデアですね」と褒めて下さった。生来、褒められることなど滅多にない上に、考えていなかったことを褒められ、居心地が悪く、次は本当の工夫をしたいと思った。同時に小さな達成感もあった。

振り返ると、数日前にワクワクした時点で先生の指導は始まり、当日は褒めながら私たちが気づいてないことを伝え、普段と違う状況で力を発揮することや、そのための工夫の大切さを教えて下さったのだと思う。

この奥義に少しでも近づきたいのだが、すぐに口を出し、手助けし、ワクワクするような勉強を促すこともできていそうにない。これを先生は褒めて下さるだろうか。

麻酔科を選んだ理由

広島大学麻酔蘇生学 濱田 宏

学生や研修医から「先生はどうして麻酔科を選んだのですか?」と聞かれることがよくあります。そのたびに「うーん、選んだ理由ねえ」と30数年前の学生時代の記憶を掘り起こしています。当時はまだ麻酔科という存在が今ほど世間一般に知られていなかった時代です。恥ずかしながら医学生だった自分自身、途中まで麻酔科という診療科があることを知りませんでした。最初に知ったのは先輩の学年の進路状況が貼り出された時で、内科や外科と並んで学年の1割くらいの人たちが進路として選んでいた「麻酔科」という文字に、すごい衝撃と好奇心を覚えました。講義が始まると、麻酔科の仕事内容だけでなく学問的にもとても惹かれるようになりました。当時、麻酔科の講師だった先生が「熟練した麻酔科医は、ただ廊下を歩いているだけで、その人のまわりには“安心感”という独特のオーラが醸し出されるものだ」と講義で言われていました。自分もそんな医師になりたいな、と強く憧れました。そしてついに臨床実習です。麻酔科医はなんだかとん

でもないことを、こともなげにやってのけているように学生だった私の目には映りました。とても頼もしく見えました。これしかない!それからは手術室に入っても麻酔科医の仕事しか見ていませんでした。私はもともとパイロットになるのが夢でした(今でも可能ならやってみたい職業です)。麻酔科医の仕事が実はパイロットの仕事とよく対比されていることを後に知り、やはりこれが天職だったのかなと今は思っています。選んだ理由はこれ全部なので、聞かれたらこのように話していますが、中でも講義で引きつけられたことが進路選択を大きく後押ししたきっかけになっています。毎年学生講義を担当していますが、私の講義がひとりの人生を左右する可能性もあることを考えると、責任の重さを身にしみて感じます。あの当時の講師の先生のような、心に響く引きつける講義がしたいといつも思いながら、毎回上手に麻酔をかけてしまっていることに反省するばかりです。

継承

九州大学病院 白水 和宏

この原稿を書いている今は2018年2月ですが、早いもので来月には当教室の外 須美夫教授がご退任されます。約10年間、九州大学の麻酔科教授として、教室のみならず麻酔学の発展に御尽力いただきました。その間、日本麻酔科学会の理事長として国内外で御活躍になり、その姿を我々医局員は誇らしく思うとともに教室の偉大な先輩として憧れていました。

御存知の通り外教授は飾らない人柄で、誰に対してもフランクに話して下さいます。そのため患者さんや学生さん、そして医局員からとても慕われています。話しかけやすい雰囲気から、こちらも砕けた気分になりがちですが、失礼の無いように自らを戒めることも度々でした。また外先生は、飛行機での出張の際にビジネスクラスはご利用になりません。目上の人への遠慮からそうされているようですが、そういったことに頓着せず、ビジネスクラスを利用してしまった医局員は周囲からからかわれる羽目になります。

外先生がお辞めになった4月以降も、これまで築いてこられた医局の明るい雰囲気や関連病院との信頼関係、質実剛健な研修プログラムなどをしっかりと継承し、更に昇華させながら、臨床・教育・研究の全てにおいて教室を盛り立てていくことの重要性を痛感しています。

福岡は全国の人口減少が始まる中で逆に増加を続けており、コンパクトながら勢いのあるバランスのとれた街です。また県内に大学病院が4つもあり、人口当たりの医師数は比較的多い自治体ですが、まだまだ充分とは言えない状況です。これからもこれまで以上に精進を続け、元気な街福岡から全国に最新の知見を発信できるように、更には再度日本麻酔科学会理事長を輩出できるくらい人材豊富な教室を目指して頑張っていきたいと思います。我々の教室の今後には是非ご注目ください。

2018年度 第57回麻酔科専門医認定試験実施予定について

教育委員会・認定審査委員会

2018年度第57回麻酔科専門医試験の実施予定をお知らせいたします。

試験日

筆記試験： **2018年9月30日**(日)
 口頭試験・実技試験： **2018年10月5日**(金)
 ～ **2018年10月7日**(日)

試験会場

筆記試験： 2会場で実施(東京会場・神戸会場)
 ●TOC有明(東京会場)
 ●神戸ポートピアホテル(神戸会場)
 口頭試験・実技試験： 1会場(神戸会場)で実施
 ●神戸ポートピアホテル

*日程・会場に変更がありました際は、学会HPにてお知らせいたします。

【申請受付期間】

2018年5月1日(火)～**2018年6月30日**(土)

申請方法など詳細は、学会ホームページ「認定申請について」ページでご案内しておりますのでご確認ください。

医師賠償責任保険の送付、ならびに 医師賠償保険適用開始時期と 入会時期について

弊会会員向けの医師賠償責任保険に関する更新のご案内書類については、2018年2月頃に会員の皆様へ送付しておりますので、各自お手続きをお願いいたします。
 ※2018年4月以降に入会した場合、保険は入会後の適用となりますので、4月1日からの適用はできません。弊会会員向けの医師賠償責任保険は入会後に適用されます。

上記以外のその他保険に関する詳細事項・お問い合わせにつきましては、ご案内しております各保険会社にお問い合わせください。

認定資格申請書類について

日本麻酔科学会倫理委員長 山崎 光章

麻酔科専門医試験をはじめとして日本麻酔科学会へ各種の認定資格を申請する際には、その内容を十分に確認し、間違いの無いようにして提出することは、会員として当然のこととなります。残念ながら、この度、麻酔科専門医試験の申請の際に意図的に内容を捏造したと認定された事例がありました。

このような場合、日本麻酔科学会では、規則に則り、本人に状況の説明を求め、審議の後に専門医試験の受験資格喪失や訓戒から除名に至るべき懲罰処分をとることとなります。意図的な書類の捏造は、社会の規律を破壊するものであり、日本麻酔科学会会員として、また医師として、社会人として道義的にも倫理的にも恥ずべき行為であります。今回の事例は、麻酔科専門医となれば多くの後輩を指導しなければいけない立場に立ってしまう事を考えると、決して許されることではありません。

日本麻酔科学会へ提出すべき申請書類は複数存在します。これらの書類を申請する際には、作弄的な意図がなくとも十分に申請内容を吟味し、提出するよう注意してください。最近では、学会発表や論文投稿なども倫理的に適正な手順を踏むことが強く求められています。大多数の日本麻酔科学会会員の皆様は、一般常識や倫理の講習会などを通じて、書類申請や学会発表、論文投稿について倫理的に適切かどうかという判断は十分に出来ると思っておりますが、今後とも規律違反となるような行為を慎むよう強く要望いたします。倫理委員会としても、会員の皆様に適切な倫理とは何かということの啓蒙に務めていく所存です。

年会費をお支払ください

2018年度年会費をお支払下さい。支払期日は2018年9月30日です。

また、2017年度年会費をまだお支払でない方は、至急お支払ください。会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従ってお手続き下さい。

領収書について

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従って出力下さい。(1回のみ出力可能です)
 ※年会費以外の領収書発行については左側メニューボタン「会費以外の領収書発行」より可能です。

会員(IC)カード発行について

第65回学術集会に間に合う会員(IC)カード申込期日は2018年4月9日(月)でした。期日までの再発行申込者及び入会者には4月下旬～5月上旬に発送いたします。期日以降の再発行申込者及び入会者には8月下旬に発送する予定でございます。会員(IC)カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プロフィール」、左側メニューボタン「カード再発

行申請」からお手続きを行ってください。当日持参がない場合は、会場で会期中使用可能なカードを有料発行のうえ、学術集会等にご参加下さい。

入会について —ご周知下さい—

毎月10日までにWEB申込及び必要書類の提出が完了している方を審査し、同月15日付けで入会承認可否のメールをいたします。承認された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。ただし、5月については第65回学術集会の開催の関係上、入会承認可否のメール送付が21日付となります。

※一旦退会後、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、専門医等の認定資格は再入会しても復活しません。再度認定医から取得し直していただく必要があります。

※学術集会の会員として単位付与される一般演題応募、事前予約や専門医機構関連講習申込みやそのシステム利用、参加登録は、申し込み時点や参加時点で入会の手続き(申請～支払い)を完了された方に限ります。尚、第65回学術集会当日の入会申込みは受け付けておりません。会員として参加可能な方は、2018年4月10日までの入会手続き完了者となります。

メールアドレス・勤務先・住所の確認変更のお願い

○会員WEBページ「マイページ」について

会員WEBページ「マイページ」(会員情報管理WEBページ、年会費支払、単位管理など)が2016年10月より変更になりました。

ログインページURL : https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx

※日本麻酔科学会HP トップページ「重要なお知らせ」欄の上に掲載している『「マイページ」 ログイン』からもログイン可能です。

※ログインするためには会員番号とパスワード(マイページ用)の入力が必要です。

【マイページから行っていただける手続き】

- ① 年会費支払、領収書発行
- ② 会員情報変更
- ③ 各種領収書の発行
- ④ 会員カードの再発行申請
- ⑤ 単位取得状況確認
- ⑥ 学術集会事前申込
- ⑦ Eラーニングの受講
- ⑧ 認定資格入力、書類作成

【マイページから行っていただけない手続き】

- ⑨ 抄録の受付、査読

※①から⑤はマイページにログインいただいた後「プロフィール」から手続き可能です。

※⑥はマイページにログインいただいた後「学術集会事前受付」から、⑦は「e-Learning」からそれぞれ行っていただけます。

※⑨については別システムとなり、別途メール連絡を以ってご利用頂くこととなっております。

○メールアドレス・勤務先・住所の確認・変更をお願いします

メールアドレスや勤務先、自宅住所が変更になった場合は、会員情報変更をお願いします。会員専用ページ「プロフィール」内「会員情報更新」より変更が可能です。未更新の場合、重要なメールや発行物が届かず、先生ご自身に不利益が生じる可能性、それまでの所属先や次の居住者にご迷惑をおかけすることになります。

※勤務先が認定病院の場合は必ず、施設番号欄横の「検索」から施設名検索を行い、選択して下さい。

※認定病院情報(住所・電話番号・代表専門医など)の変更については、認定病院の代表専門医より変更申請が必要です。個人での変更は出来ません。

ログインページURL : https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx

■メールについて

●弊会からのメールは「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」または「@atlas.jp」ドメインからお送りします。「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」および「@atlas.jp」ドメインを受信できるように、お使いのメールソフトで設定してください。

●携帯電話のメールアドレスは利用できません。

●認定申請の結果など、重要なお知らせもメールでご連絡します。正しいメールアドレスを登録した上で、必ずメールを確認するようにしてください。

●重要なお知らせについては、メールマガジン配信、日本麻酔科学会ホームページ及びマイページにニュースとして掲載します。

編集後記

NEWS LETTER 2018年 第2号をお届けします。この号が、みなさまのお手元に届くころは、桜の木も淡い花色からあざやかな緑色に変わっているでしょう。

今回のNEWS LETTERは、「麻酔科の基盤を見直し、未来につなげよう」というテーマで、5月17日(木)から19日(土)に、横浜にて開催予定の日本麻酔科学会第65回学術集会のお知らせが記載されています。学術集会の事前予約や参加登録、参加費についてや、プログラム集、抄録、参加単位・発表単位などのお知らせをしています。事前にお目通しください。

第65回学術集会では、麻酔博物館から、「吸入麻酔薬の歴史」の出張展示が予定されています。そう言えば、私が、研修医1年目のときに、勤務していた病院で使用できた吸入麻酔薬は、ハロタンでした。大学病院で、エンフルランを使って麻酔している同期を、うらやましく思ったことを、ふと思い出しました(この文章がわかるのは、ある年代以上の先生方かもしれません)。

また、今年度の各支部学術集会の開催日程および会長挨拶を掲載しています。それぞれの支部の会長挨拶の文章には、予定されている趣向を凝らした興味深い内容が満載されており、どの支部の学術集会にも是非参加したいと思う気持ちになります。

2018年度第57回麻酔科専門医認定試験実施予定のお知らせの記載があります。詳細は、学会ホームページにてご確認ください。

昨年の秋に、日本専門医機構の専攻医登録をされた先生方の麻酔研修が、4月から各研修施設で始まりました。これまでの、「勤務したい病院を選ぶ」から「自分のやりたいプログラムのある病院を探す」に、なりました。そのための、多くの情報を得るために、日本麻酔科学会のホームページには、麻酔科専門研修プログラム検索システムがあります。どうぞ、麻酔科への勧誘、病院紹介等にもご活用ください。

(広報委員会委員 渋谷 博美)



マシモジャパン株式会社
 〒169-0074
 東京都新宿区北新宿2-21-1
 新宿フロントタワー24階
 TEL:03-3868-5201 FAX:03-3868-5202
<http://www.masimo.co.jp>

公益社団法人 日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2018 Vol.26 no.2
<http://www.anesth.or.jp>
 2018年4月20日発行
 ©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 足立 健彦
 [広報副委員長] 白神 豪太郎
 [広報委員] 加藤 里絵、渋谷 博美、橋本 悟、藤中 和三、萬 知子
 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号
 神戸キメックセンタービル3階
 TEL:(代表)078-306-5945
 (認定関連問合せ専用ダイヤル)078-335-6078
 FAX:078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
 TEL:03-3910-4311 FAX:03-3949-0230